

合同クラス討論を基礎に 文・学生大会へ結集しよう

文学部自治会

調査に決定白紙撤回ストライキ斗争に参加された全ての教育大の学生諸君、とりわけ文學部の學友諸君！

昨日のわれわれの文・拠点ストは強固なバリケードと調査に計上への怒りに燃えたセントライインによって圧倒的に実現され既に全学ストへの突破口をなしたところを確認せねばならぬ。

農学部では、六・二〇調査に計上の事後承認の為の教授会を流会阻止する為に百五十名の学友が結集し、教育学部では文・拠点ストを背景に對教授会大衆団交を勝ちとり、理学部では学生某会で斗りなし理執行部の裁決を圧倒的に否決し、対策提起の方針のもとに、対理教授会大衆団交をわれわれ文自治会と連帶してやつた。又、体育学部のいくつかのクラスでも、文學部常任委員た「筑波について話してほし！」とか「何故ストをやらなければならぬのか」と質問する等、調査に計上・筑波移転に対する関心が高まっている。わたりのストは明確に全学ストライキへの展望を切り開きつつある。

しかし、文學系学科を中心とした学友には一定のとまどいというものも又現象していった。われわれは本日、合同クラス討論を組織し、クラス間の討論の進行状況のギャップを埋めていかなければならぬ。

本館封鎖を大衆的だ力を 勝ちとり勝利の展望を切り 開こう！

この総括をふまえるならば、本日の学生大会でわたりのが確立すべきストライキが自身は勝負をむらう。オナは、わたりのストライキを評議会へとむけねばならないという事、オニに、このストライキの全学化をかちとらねばならない事、オミに、対評議会大衆団交を追求し、その中で六・二〇の決定白紙撤回をかちこむために本館封鎖をもって斗わねばならぬ事である。

学友諸君！再びくりかえそう、われわれは本日の学生大会において本館を強固なバリケードで封鎖し、大學校舎そのものをマヒさせる事によりわたりの斗争の勝利的展望が勝ちとれるのだということを！